

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	6 教育環境の整備	② 施策番号	7103
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	3 子どもが豊かな人間関係と学ぶ喜びを育むまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	2 義務教育の充実		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
教育部	教育総務課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	・児童、生徒、 ・学校施設
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	・学校施設の維持管理、改修、改築等を適切に実施することにより、学校の機能の保全・向上を図り、良好な教育環境を提供する。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	・学校施設の老朽化対策に際し、学校施設の最適配置が求められている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 小学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合 計算式	%	適切に保安全管理している小学校施設の状態が児童のアンケート結果に反映されるため。
② 学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合 計算式	%	適切に保安全管理している中学校施設の状態が生徒のアンケート結果に反映されるため。
③ 計算式		

	指標名	単位	実績値					目標値		備考
			H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	R1見込	R2目標	
①	小学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合	%	目標値	100	100	100	100	100		
			実績値	86.6	83.9	—	—	—		
			達成率	86.6%	83.9%					
②	学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合	%	目標値	100	100	100	100	100		
			実績値	80	77	—	—	—		
			達成率	80.0%	77.0%					
③			目標値							
			実績値							
			達成率							

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標					総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価	今後の方向性	
1	学校プール授業事業	委託料	千円	4,223	4,133	1,935	10,661	10,540	9,563	B	イ b	▲
2	小学校管理事業	学校に行くのが楽しいと感じる児童の割合	%	83.9	—	—	108,412	103,365	111,575	A	ア	◎
3	小学校施設保全整備事業	施設保全整備費	千円	137,287	34,202	—	140,499	37,609	873,386	A	ア	○
4	中学校管理事業	学校に行くのが楽しいと感じる生徒の割合	%	77.0	—	—	59,081	58,431	62,497	A	ア	○
5	中学校施設保全整備事業	施設保全整備費	千円	111,058	121,156	—	114,270	124,563	27,822	A	ア	
6	中学校老朽化対策事業	改築、改修率	%	0	25	25	1,092,436	1,587,639	461,835	A	ア	
7												
8												
計	6						1,525,359	1,922,147	1,546,678			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	教育環境を整備するとともに良好な教育環境を維持することによって、義務教育の充実に寄与する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	まずは安全安心な学校施設を確保するとともに、快適な教育環境が提供できているか。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	老朽化対策や小中一貫教育事業を推進するために、ワークショップや授業見学など、保護者をはじめとした市民の積極的な市民参画の機会の創出に努めている。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	義務教育の充実、安全安心な学校施設の確保、快適な教育環境を提供していくための事業として、適正である。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	学校プール授業事業については、学校プール施設から屋内プールへと移行し、学校プール施設の廃止を想定。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	小学校の空調設備については着手済みであり、トイレ改修についても一定の方向性を確立している。 今後は、小中一貫教育の実現に向けた学校施設の在り方の検討を加速することと併せて、個別施設計画の策定に取り組む必要がある。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	小中学校の在り方について一定の方向性を検討するとともに、学校施設の個別施設計画の内容を検討する。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	小中学校の在り方に関する方向性に基づき、学校施設の個別施設計画の内容を検討し、策定する。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	小中学校の在り方に関する計画を踏まえた老朽化対策に関する実施計画等を策定し、市民への周知啓発、説明を展開する。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる
	B	学校施設の老朽化対策は、良好な教育環境の実現にとって重要な課題である。 計画的・効果的な保全に取り組まれるとともに、将来の児童・生徒数の予測、学校配置のあり方、地域としての機能配置等を踏まえた学校施設整備への取組を進められたい。	B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある